

平成16年1月30日

各 位

会 社 名 株式会社アオキインターナショナル
代表者名 代表取締役社長 青 木 拡 憲
（コード番号 8214 東証・大証第一部）
問合せ先 専務取締役 中 村 憲 侍
（TEL . 045 - 941 - 4888）

当社子会社（株式会社ヴァリック）の通期業績予想の修正に 関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、当社子会社である株式会社ヴァリックの昨年11月19日に公表した平成16年3月期（平成15年4月1日～平成16年3月31日）の業績予想を別添資料のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

以 上

平成 16 年 3 月期 第 3 四半期業績の概況（非連結） 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 16 年 1 月 30 日

会 社 名 株式会社ヴァリック (コード番号：2387 登録銘柄)
(URL <http://www.valic.co.jp>)

代 表 者 役 職 名 代表取締役社長
氏 名 牧 倫匡
問 い 合 せ 先 責任者役職名 常務取締役営業統括部部长
氏 名 中村宏明 (Tel : (045) 988 - 0888 (代表))

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における : 無
認識の方法との相違の有無

2. 平成 16 年 3 月期第 3 四半期業績の概況（平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 12 月 31 日）

(1) 経営成績の進捗状況

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
16 年 3 月期第 3 四半期	4,891 ()		546 ()		498 ()	
(参考) 15 年 3 月期	4,544		446		426	

(注) 1. パーセント表示は、前年同四半期比増減率を示しております。
2. 前年同四半期については四半期決算を実施しておりませんので記載を省略しております。

[経営成績の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 3 四半期におけるわが国経済は、設備投資の増加、企業収益の改善傾向、輸出の持ち直し基調が見られるなど、一部明るい材料がうかがえるものの、引き続き雇用情勢は厳しく、個人消費も横ばい傾向で推移するなど、依然として先行き不透明感が残る推移となりました。

こうした環境のもとで、当社は、平成 15 年 4 月より新たにスタートした S V (スーパーバイザー) 制度 (個店別の管理体制強化を目的に、全国を 10 エリアに分け各エリアに店舗を統括管理・指導する S V を配置した制度) の強化による個店別のきめ細かい活性化対策を行い、好調店舗と不振店舗の格差是正、既存店全体の売上底上げを図ってまいりました。第 3 四半期 (平成 15 年 10 月 1 日～平成 15 年 12 月 31 日) に入り、その効果が表れ始め、当第 3 四半期の既存店前年同期比は売上高 102.0%、客数 101.6%、客単価 100.4% となりました。また、飲食メニューの更なる充実を図るために一部メニューの改廃を実施するなど、幅広い顧客ニーズへの対応に努めるとともに、原材料の絞込みによる在庫効率改善、

仕入コスト削減に努めてまいりました。同時に、店舗における食材仕入、アルバイト人件費等の経費管理につきましても、個店毎のきめ細かいコントロールにより、ほぼ計画どおりに推移いたしました。

店舗展開につきましては、東北地域1店舗、関東地域2店舗、北陸地域7店舗、中京地域4店舗、関西地域2店舗の計16店舗を新規出店し、各地域のドミナント化の一層の強化、充実を図り、前年同四半期末に比較して20店舗増の61店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期の業績は、売上高4,891百万円、営業利益546百万円、経常利益498百万円となりました。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象
該当事項はありません。

3. 平成16年3月期通期(平成15年4月1日～平成16年3月31日)業績予想の修正

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
今回発表予想(A)	6,804	681	262
前回発表予想(B)	6,715	528	262
増減額(A - B)	89	153	0
増減率(%)	1.3	29.0	0.0
(参考) 前期実績(平成15年3月期)	4,544	426	146

[業績予想に関する定性的情報等]

売上高は、第3四半期までの新規開設店16店舗が好調に推移していることと、平成15年4月よりSV(スーパーバイザー)制度(個店別の管理体制強化を目的に、全国を10エリアに分け各エリアに店舗を統括管理・指導するSVを配置した制度)を導入して以来、エリア毎に既存店のきめ細かい対応を実施しており、既存店売上高が回復傾向にあること等の理由から好調に推移しているため、前回発表予想との比較で89百万円増となる6,804百万円に修正いたしました。

経常利益は、新規出店にかかる費用が当初想定したよりも少なく、固定費が計画を下回る推移となっていること、店舗の販売促進活動及びクリンリネス(清掃)強化に伴う店舗人件費増を見込んでいたのに対し、売上高の増加にもかかわらず、個店別のコントロールを徹底したことにより、ほぼ計画どおり推移していること等が要因で、前回発表予想との比較で153百万円増となる681百万円に修正いたしました。

また、第4四半期(平成16年1月1日～平成16年3月31日)につきましては、4店舗の新規出店を計画しており、当初計画どおり年間20店舗の新規出店となる見込であります。

当期純利益について、経常利益が前回予想に比較して153百万円増となるのに対して、

当期純利益が前回予想から変更がない要因は、継続して活性化対策を実施しているにもかかわらず、今後の売上回復、利益改善の見込がない不振店舗 2 店舗を閉店する予定であり、この閉店に伴う固定資産除却損等の特別損失を見込んでいるためであります。

以上の結果、通期の業績予想は、前回予想に対して、売上高 1.3% 増、経常利益 29.0% 増を見込んでおります。

なお、不振店舗 2 店舗閉店による来期の業績に与える影響は、当初予想に比べ売上高で約 1 ポイント減を見込んでおりますが、営業利益率は 0.3 ポイントほどの改善を見込んでおります。これにより、今後の更なる経営効率の向上を図ってまいります。

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上